

夢まで疾走 成長誓う

垣田 五輪代表有力

メダル争いへ持久力磨く



女子4000m団体追い抜きでパリ五輪代表入りが有力となった垣田真穂＝3月上旬、静岡県伊豆市の伊豆ベロドローム

「小さい頃からの夢はオリンピックでメダルを取ること」。自転車トラック種目の女子4000m団体追い抜きで、松山学院高出の垣田真穂(19)は、楽々Kドリームスのパリ五輪代表入りが有力となり、夢の実現へ近づいた。

(1面参照)

垣田は昨春、早大に進学した。日本代表チームの一員として、2月のアジア選手権で優勝し、3月のネーションズカップ第2戦では史上初の銅メダルを獲得。持ち味の持久力を生かし、日本の五輪出場枠獲得に大きく貢献した。北九州市出身。小中

高校時代に指導した同校の鮫島浩二監督(41)は「教えたことを

学校時代はサッカー少女で、自転車は中学3年生から始めた。親元を離れて全国屈指の強豪・松山学院高に進み、「がむしゃらに練習した。周りの意識も高く、競技に集中できた」。すぐに頭角を現し、数多くの国内タイトルを手中に収めた。

早大進学後の練習拠点は、東京五輪の会場となった静岡県伊豆市の伊豆ベロドローム。昨シーズンはジュニアからエリートにカテゴリーを上げ、多くの国際大会に出場した。将来的な目標は2028年ロサンゼルス五輪の個人種目で金メダルを取ること。その足掛かりとなるパリに向け「メダル争いに絡めるぐらいの実力をつけるため、苦手なスタートを頑張り、持久力も高めたい」とさらなる成長を誓う。



伊豆ベロドロームで練習する垣田真穂
＝3月上旬、静岡県伊豆市